2022

国際理解・国際協力のための作文・感想文コンテスト

優 秀 作 品 集

日本国際連合協会山口県本部
Yamaguchi Prefectural Chapter of the
United Nations Association of Japan

序

国際連合（国連）は、世界の平和と経済・社会の発展のために協力することを誓った独立国が集まって設立された機関で、現在193ヵ国が加盟し、日本は昭和31年（1956年）に加盟しました。

山口県では、昭和27年（1952年）に「県民の運動として国連の目的実現に協力すること」を目的に、日本国際連合協会山口県本部を設立して以来、県民の皆様に国際社会の平和や安全をはじめ貧困等の諸問題を身近に考えていただき、国連の役割や国際理解を一層深めていただけるよう活動を行っています。

今年度の、「国際理解・国際協力のための中学生作文コンテスト」、「高校生によるSDGs に関する感想文コンテスト」では、県内から多数の御応募をいただき、その中から、優秀な作品を選び、この作品集に掲載しましたので、ぜひご一読ください。

日本国際連合協会山口県本部
本部長　田中　マキ子

日本国際連合協会山口県本部について

主な活動内容

- 「国際理解・国際協力講演会」等の開催
- 各種コンテストの開催
  「国際理解・国際協力のための中学生作文コンテスト」
  「高校生による SDGs に関する感想文コンテスト」
  「外国人による日本語スピーチコンテスト」

ホームページ

https://unaj-yamaguchi.sakura.ne.jp/

国際理解・国際協力のための作文・感想文コンテスト 2022

優秀作品集目次

中学生の部 第 62 回 国際理解・国際協力のための中学生作文コンテスト

特賞（山口県知事賞） 2

「持続可能な開発目標（SDGs）の中で一つ目標を選ぶとしたら、どのような理由でどの目標を選ぶか。また、その目標をどのように達成するか。」

山口市立小郡中学校　２年　植 岡　和 奏

特賞（日本国際連合協会山口県本部長賞） 4

「争いや差別のない世界にするために国連と私たちができること。」

～ 過去に学び 未来のために今を生きる ～

光市立島田中学校　３年　井 上　史 絵

優秀賞（公益財団法人山口県国際交流協会理事長賞） 6

「持続可能な開発目標（SDGs）の中で一つ目標を選ぶとしたら、どのような理由でどの目標を選ぶか。また、その目標をどのように達成するか。」

～ SDGs が目指す「つくる責任つかう責任」を果たすために ～

高水高等学校付属中学校　２年　穐 山　桃 子

優秀賞（山口県ユネスコ連絡協議会長賞） 8

「今の国連に何が求められているのか。」

山口市立鴻南中学校　３年　磯 部　桃 花

特別賞（国際ソロプチミスト山口賞） 10

「今の国連に何が求められているのか。」

～ 国連が担う未来の世界 ～

光市立島田中学校　２年　今 田　咲 那

特別賞（山口ロータリークラブ会長賞） 12

「持続可能な開発目標（SDGs）の中で一つ目標を選ぶとしたら、どのような理由でどの目標を選ぶか。また、その目標をどのように達成するか。」

光市立島田中学校　３年　杉 本　悠 斗

高校生の部 第29回 高校生によるSDGsに関する感想文コンテスト

特賞（山口県知事賞） 15

SDGs⑭：海の豊かさを守ろう

「半径５メートル」

山口県立下関中等教育学校　２年　竹 島　藍 子

特賞（日本国際連合協会山口県本部長賞） 17

SDGs⑰：パートナーシップで目標を達成しよう

「課題解決のために私たちができること」

山口県立下関中等教育学校　２年　三喜田 果 音

優秀賞（公益財団法人山口県国際交流協会理事長賞） 19

SDGs⑬：気候変動に具体的な対策を

「私達が創るこれからの未来」

サビエル高等学校　３年　岡 本　萌

優秀賞（山口県ユネスコ連絡協議会長賞） 21

SDGs②：飢餓をゼロに

「私たちにできること」

サビエル高等学校　３年　新 川 七 海

特別賞（国際ソロプチミスト山口賞） 23

SDGs④：質の高い教育をみんなに

「質の高いって何だろう」

山口県立下関中等教育学校　２年　川 﨑　光 稀

特別賞（山口ロータリークラブ会長賞） 25

SDGs⑪：住み続けられるまちづくりを

「高校生による SDGs に関する感想文」

柳井学園高等学校　１年　泉　穂乃香

第 62 回

国際理解・国際協力のための
中学生作文コンテスト

優　秀
作 品 集

Yamaguchi Prefectural Chapter of the United Nations Association of Japan

特　賞（山口県知事賞）

持続可能な開発目標（SDGs）の中で一つ目標を選ぶとしたら、どのような理由でどの目標を選ぶか。また、その目標をどのように達成するか。

山口市立小郡中学校　2年　植岡（うえおか）　和奏（わかな）

現在、ロシアとウクライナの戦争が続いている。長い間、紛争が続いているところもある。戦争によって、何人もの人が命を落として、自分が生きたいように生きることができない人が数多くいる。５分に一人、子どもが暴力によって亡くなっている。2700万人もの子どもが、紛争の影響で学校に通えていない。今、世界は平和とはいえない状況だ。私たちが住んでいる日本は、今のところ戦争をしていない。しかし、いつ、どうなるかわからない。今、日本が戦争をしていないからといって、今の世界の状況を楽観してはいけない。そこで私は、目標16「平和と公正をすべての人に」を選ぶ。

私はこれまで、ずっと日本で暮らしている。戦争も、授業で学んだけれど、「ふーん、そんなことがあったんだ。」と、今の日常から、どうしても戦争が起きるということが想像できなかった。家族や友達と笑い合い、学校に通う。あたり前のような、幸せな日々。そんな生活が続くことを、信じて疑わなかった。けれど、今年の２月、信じられないニュースを耳にした。「ロシアがウクライナに軍事侵攻を始めました。」毎日のように流れる爆撃の映像。大きな荷物を抱えて避難する人々。街中にいくつか死体が転がっているという映像を見たときは、状況を飲みこむのに少し時間がかかった。あまりにも現実とかけ離れていた戦争。それがいきなり身近に感じ、はっきりとした恐怖を感じた。少したったある日、テレビで軍事侵攻のニュースを見ていた母が、「募金しようかな。」と言った。「私もする。」私は、ウクライナに募金をした。痛々しい映像をテレビの前で見ているだけでは、嫌だった。目標達成のために、私たちにできること。まず一つは、募金だ。募金をすると、紛争などに苦しんでいる人たちに、物資が届く。寄付した支援金が、ワクチンや栄養治療食になると、課題となっている子どもの死亡率が低下すると考えられる。そして、鉛筆やノートなどの学習道具が届くと、勉強もできるようになる。ユニセフ募金では、２円でビタミンＡカプセル１錠になる。２円が、薬になって病気の人を救えると知って、驚いた。募金をすることは、苦しんでいる人の救いになるということを改めて感じた。

多様性を受け入れるということも、私たちにできることの一つだ。世界にはいろ

いろな考え方や捉え方を持っている人がいて、自分と全く同じ人はいない。一人一人違っていて当たり前だ。だからこそ、「好き」「嫌い」という感情が生まれる。しかし、個人の価値観で、自分の考えだけを押しつけて、排除したりしようとするのは、違うのではないだろうか。一人一人の違いを認め、受け入れるという関係が、誰もが自分らしく生きられる社会になるために大事なことだと思う。一方的に非難せず、みんな違っていて当たり前、と違いを前向きに捉え、互いを認め合うことが、平和な世界の実現になくてはならないことだと思う。

「公共機関を発展させる」「法的な身分証明を提供する」など、国が主体となって進めていかなければならないターゲットが多いかもしれない。だからといって、私たちに何もできないわけではない。募金をすると、支援金によって病気の治療ができたり、勉強ができたりするようになる。多様性を認め合うことで、差別を受けたり、今まで理解されずに苦しんでいた人が、自分らしく生きれるようになる。小さな勇気が、大きな結果となるのだ。私たちにできることは、日常生活の中にもたくさんある。今の世界の状況に目を向け、一人一人がその課題について考えることが、目標達成への第一歩ではないだろうか。私も、日々の生活から、すべての人が自由に、ありのままの自分で生きられる平和な世界にするためにできることをしていきたい。一部の人だけでなく、誰もが苦しまずにすむ世界が訪れることを願って。

特 賞（日本国際連合協会山口県本部長賞）

争いや差別のない世界にするために国連と私たちができること。

～ 過去に学び 未来のために今を生きる ～

光市立島田中学校 3年 井上（いのうえ） 史絵（ふみえ）

８月６日、私はこれからの世界が平和であることを祈って黙とうをした。そして、この日はテレビをつけると、戦争の映像を見ることがある。毎年同じような映像だけど、その悲劇の瞬間に慣れることはないし、毎年私に恐怖を感じさせる。だからこそ、多くの人々は二度とこの悲劇を繰り返さないように願い続けてきたのだろう。しかし、この夏休みの間も、始まって６ヵ月が経とうとしている今も、終わりの見えない悲劇は続いていた。ロシアによるウクライナ侵攻である。なぜ、戦争が続いているのか、今何をするべきなのか疑問に思った私は、「争いや差別のない世界にするために国連と私たちができること」について考えてみた。

まず、初めに「国連」について詳しく調べることにした。そもそも、国連には四つの目的があり、一つ目は「平和と安全の維持」二つ目は「国家間の友好関係の発展」三つ目は「国際問題の解決と差別なく人権や自由を尊重すること」四つ目は「中心的役割を果たすこと」である。そして、国連は第二次世界大戦を防ぐことができなかった反省を踏まえて設立したものである。私は、これを聞いて尚更、なぜ国連はウクライナ侵攻を防げなかったのか、なぜ戦争を前にして国連は無力なのか分からなかった。さらに調べると原因は常任理事国であるロシアが持つ拒否権にあることを知った。この制度があることは、中学３年になってから社会の授業で学習したけれど、まさかこんなところで使われているとは思ってもいなかった。私は、この制度があることに違和感を感じた。なぜなら、目的の一つとして平等な人権や自由を掲げている国連という組織自体が、平等ではないと思ったからだ。たしかに、核を持つ大国の反対を押し切って決定すると大戦になる可能性はあるのかもしれない。しかし、世界の中心的役割を果たす国連だからこそ、加盟国に対する平等を守り、世界の模範となる必要があるのではないだろうか。だから、私は、国の大小や貧富に関係なく平等に投票力や発言力を持たせること、それが争いや差別のない世界にするために国連ができることだと思う。

次に、私たちにできることを考えてみた。私は、争いをなくすことに直接繋がるかは分からないけれど、「知る」ということが大切だと思う。広島に原爆が落とされてから77年が経った今、実際にそれを見た人は数少ないだろう。もちろん、私も

私の両親も実際の原爆を知らない。けれど、本やテレビ、インターネットを使って、戦争を知ることは可能である。戦争を知ることは、二度と同じ悲劇を繰り返さないことに繋がると思う。また、人種差別や性差別などの差別があることも争いが起こる原因の一つだと思う。差別とは、国際的なことだけではなく、私の身の回りにもたくさんあふれている問題である。例えば、SNS では、容姿や考え方の違いによる誹謗中傷がある。さらに身近な、学校という集団生活の中でも同じようなことが起きているのだ。これらは、自分と違う者を認めることができないからなくならないのだと思う。まずは、どんな理由があっても、容姿や家柄などによる差別は絶対にしてはいけないと思う。そして、考え方の違いに悩むことは誰だってあるだろう。けれど、様々な考え方があるのは当然のことなのだから、自分の想いを押し殺す必要も、相手を否定する必要もないのだ。だから、まずは一度相手の想いにきちんと耳を傾けて、一つの考えとして認めるようにしたいと思う。さらに、多種多様な人間、考え方があるからこその楽しさや一人一人の良さというものを探していきたい。

世界から争いや差別をなくすのは、そう簡単ではない。ほぼ不可能に近いかもしれない。けれど、この世界を守るために必要であり、いつか必ず達成しなければならない課題だと思う。だから、私は私にできることを一つずつ達成し、いつかの平和に繋げたいと思う。

優秀賞（公益財団法人山口県国際交流協会理事長賞）

持続可能な開発目標（SDGs）の中で一つ目標を選ぶとしたら、どのような理由でどの目標を選ぶか。また、その目標をどのように達成するか。

～ SDGsが目指す「つくる責任つかう責任」を果たすために ～

高水高等学校付属中学校　2年　**穐山（あきやま）　桃子（ももこ）**

「我が命を　長門の島の　小松原　幾代を経てか　神さび渡る」

私は山口県南東部の瀬戸内海に浮かぶ屋代島に住んでいる。これは、私の住む小松地域にある、塩竈神社の石碑に刻まれた万葉歌である。「長門の島の小松原は、幾代も過ぎて、ますます神々しさを増してゆくでしょう」という意味を持つ、私の好きな万葉歌である。2030年までに私たちが達成すべき目標を考えるたびに、この石碑の万葉歌を思い出す。そして「幾代過ぎても、ますます神々しさが増す世界」を目指さなくてはいけない、と強く思うのである。

2015年に国連が採択した、持続可能な開発目標である「つくる責任つかう責任」。これを達成するために、私にできることは何かを考えるきっかけとなった出来事が二つある。一つ目は、日本で自動車リサイクル法が施行され、使われなくなった自動車の99％が鉄筋や部品、燃料などにリサイクルされていることを、祖父から聞いたことである。日本の自動車リサイクルの仕組みは行政、産業、消費者が一体となり、再資源化を行っている。そのため、不法投棄も大幅に削減したという。祖父は、自動車や重機の修理に長年関わっており、不要な部品を無駄なく資源に変えることは当たり前だと思っている。今後、2030年までにこの画期的なリサイクル法が、自動車に限らずあらゆる分野において実践されたら、再資源化が進み、世界中で限りある資源を有効に使う動きに変わるのではないかと思う。そのためには、国を挙げてのシステム作りが必要である。このジャパンモデルを世界に発信し、世界中に広げていくことが日本の大切な役割であると思う。日常生活において、私は祖父のように「無駄を富に変える」行動を実践したいと思っている。

二つ目は、４年前に水道管が破裂し、私の住む町が40日間断水したことである。小学校では、トイレ用にプールの水を学校まで運び、井戸や給水車から自宅まで水を運ぶ日々が続いた。そのとき、水の尊さや重たさを改めて感じた。そして今まで、蛇口をひねればどこでも自由に水を手に入れられることを良いことに、惜しげもなく使用していた自分にとても反省した。世界では、アジア、アフリカをはじめとす

る途上国地域で、今もなお９億人もの人々が、安心して飲める水が身近にない生活を送っている。子どもたちは学校に通えず、毎日重い水を運ぶため長い道のりを歩いている。大切な水資源を無駄使いしていた自分を、恥ずかしく思った。この断水がきっかけとなり、我が家では雨水の利用を始めた。屋根からパイプを通して流れる雨水をタンクに溜め、庭の水やりや洗車などに利用している。雨水は、貴重な水資源であることに気づいた。

その他に、中学校の生徒会活動で行っているエコキャップやコンタクトレンズケースの回収活動。外出時に出たペットボトルは家に持ち帰り、洗浄して分別するなど私が日常生活で行っている取り組みは小さな行動である。しかし、限りある資源を有効に使うためには、新たな生産活動ばかりに目を向けるのではなく、今ある資源を再資源化することを考える必要があると思う。新たな生産活動においては、廃棄物による環境汚染もますます進んでしまうだろう。化学薬品などによる水質汚染については、生態系を乱すだけでなく、水資源までも不足させる恐れがある。

第76回国連総会でのアントニオ・グテーレス国連事務総長の演説において、とても心に響いた言葉がある。

「私たちが生み出した問題は、私たちが解決できる問題だ。」「私たちが協力すれば素晴らしいことが成し遂げられる。」

国連100周年にあたる2045年、「神々しさが増す世界」を目指して、今こそ私たちは、真剣にそして迅速に行動しなければならない。

優秀賞（山口県ユネスコ連絡協議会長賞）

今の国連に何が求められているのか。

山口市立鴻南中学校　3年　磯部（いそべ）　桃花（ももか）

今、この世界ではご飯が食べられない人や家が無い人、学校に行けない人、さまざまな人が存在しています。

去年の夏、私はYouTubeで一本の動画を見つけました。それはご飯を食べられない子供たちや家が無くて路上に寝ている人の動画でした。私はこの動画を見たとき、とても言葉では言い表せない気持ちになりました。悲しい気持ちとこんなに苦しんでいる人がいるのに何もできない自分が惨めでとても悔しくなりました。

この動画を見たときに今の私たちは何をするべきなのか、私たちに何かできることはないのかすごく考えました。今私たちや国連に求められていることは、もっともっと他国との関わりを深めて互いに支え合うことだと思いました。それに加えて各国のボランティア団体を強化していくことが必要なのかなと思いました。

私が貧困について調べたとき、たくさんのボランティア団体が出てきました。それを見つけたとき、ボランティア団体の勢力に加わることができない今、自分にできることは何があるのかと考えたとき思いついたのが、コンビニのレジとかどこにでもある募金箱に募金することでした。私にはそれぐらいしかできないけど、全世界の人が数人ずつ募金するだけで貧困の人たちへの大きな支えになれるのかなと考え、私は何かを買ったときに出るおつりは、募金箱があれば全て募金するようにしています。

これからの世界でどれだけ今の貧困の状態から良くなるかは分からないけど、今貧困の状態におかれている人たちがみんな幸せに笑顔で暮らせる世界になっていけば嬉しいです。

そのために国連で食料とか物資を共有し合える国際関係を築いていくべきだと思います。そうすれば、少しでも今の状態から良くなるかなと思います。

ボランティア団体を強化していく必要があると思った訳は、現地に行って貧困の方たちを支えていく人を増やすのもすごく大切だけど、今の貧困の状態を広めていく人たちがすごく必要だなと思ったからです。

今の状況を知ってもらえることで、ボランティア団体や募金に少しでも興味をもってもらえると思います。そうなったら貧困の問題を深く考えてくれる人が増えて、世界中の人たちが「貧困を無くそう」と思ってくれる人がすごく増えていくか

なと思います。

私は大人になったら、ボランティア団体に入って少しでも貧困の方々の力になりたいです。その頃の貧困を世界中に発信して、みんなが貧困を問題視する世界にしていきたいです。それまでは募金をし続けて、少しでも私のお金で誰かの笑顔が増えたら嬉しいです。

私が思うことは、世界の一部の人たちが幸せでも、世界の一部の人が苦しい思いをしていては意味が無いと思います。幸せや笑顔はお金で買えるものではないけれど、お金が無ければできないことの方が多いから、お金が無いとできないことを、みんなで協力して支え合って補うことが貧困の方々を減らしていくための最善策なのかなと思います。貧富の差を気にして生きていくよりお互いが支え合って生きる方がみんな幸せになれて良いと私は思います。

国連に求められていること、私たちに求められていること、今の状態で必要になってくることは数え切れない程あるけど、これ以上苦しい思いをする人が増えないようにするために、みんなが幸せだと思えるように、できる限りのことを精一杯していきたいと思います。

特別賞（国際ソロプチミスト山口賞）

今の国連に何が求められているのか。 ～ 国連が担う未来の世界 ～

光市立島田中学校　2年　今田（いまだ）　咲那（さな）

環境問題、紛争、最近ではロシアのウクライナ侵攻。様々な問題を抱えるこの世界で、指揮をとるのが国連こと国際連合だ。世界情勢に興味を持つ私には、国連は憧れの的だ。だから私は、国連の現状を知り、自分の意見を書き著すことができるこのお題を選んだ。

まず環境問題について見ていく。地球温暖化、大気汚染、ゴミ処理についての問題、森林の伐採など……。挙げたらきりがない。これらの解決策を考えるなど、頭が痛くなりそうだ。明確に解決策を掲げ、批判無しに解決へ向かっていくなんて、とても難しい。そして、その解決策を世界中の人みんなに意識して過ごしてもらうなんて、難しいなんてものではなく、無理に等しい。だが最近話題になっているものがある。SDGsだ。SDGsの下、環境への配慮を工夫して行っているのを見たのも一度や二度ではない。この話題性を利用し、もっと本格的に対策を行うことが必要だと私は思う。他にも、環境問題について深く問題視していない人は、私の身の周りでも非常に多いと感じる。環境問題の深刻さについて多くの人に知ってもらうことはもちろん、「インターネット」を利用して広めるといいと思う。今の若い世代は、インターネットを通じて情報を知ることが多いと思うのだ。もちろん、私も。

次は差別、人種問題についてだ。昔からの価値観が影響するこの問題は、環境問題以上に解決が難しいだろう。実際に、アフリカには黒人差別が根深く残っている地域もある。黒人だけではなく、アジア人の差別だって問題だ。アメリカに留学する日本人が、留学先で心ない言葉をかけられた、という話も聞いたことがある。先ほど書いた通り、これは昔から根深く残る価値観なため、完全に解決なんて、本当に本当に難しいだろう。ただ、意識を変えることはさほど難しくないと思う。自分たちとは異なる人種を差別的に見てしまう「思想」を変えようとするのではなくて、それを表に出すことはしない、自分たちと同じ人間だという「意識」を持たせれば良いのだ。その方法は数多にある。本、ドラマや映画、広告……。そうして一人でも多くの人の意識を変えさせる。これは、国連とは言わず、誰にだってできる。そして人種差別を解消していくことは、紛争を減らしていくことにもつながると思う。

改めて、私は本当に国連の人に尊敬を感じている。いくら模索しても解決策が見つからないような問題に立ち向かい、言語も文化も異なる人たちと連携を取っていかな

ければならないのだから。今の時代、世間から批判を受けることも多いと思うが、この世界の平和を担う「国際連合」としてこれからもっと平和への道を先陣をきって走ってほしい。それと同時に、違う文化に触れる楽しさや、自分と違う言語の人との交流で、心を通わせる感動をたくさんの人に広めてほしい。国連が担う未来の世界に大きな期待をしている。

特別賞（山口ロータリークラブ会長賞）

持続可能な開発目標（SDGs）の中で一つ目標を選ぶとしたら、どのような理由でどの目標を選ぶか。また、その目標をどのように達成するか。

光市立島田中学校　3年　杉本（すぎもと）　悠斗（ゆうと）

SDGsとは何なのだろうか。それは「人類がこの地球で暮らし続けていくために、2030年までに達成すべき目標。」と書かれており日本も積極的に取り組んでいるそうだ。しかし、このままでは2030年までに全ての目標を達成することは難しいのではないかと思う。

SDGsの中で僕が一つ目標を選ぶとしたら、11「住み続けられるまちづくりを」が持続可能な社会にしていくためには、重要だと考えた。理由は、住む場所が安全で便利なところであれば人口が少ない地域にも人が集まり街を活性化できると思ったからだ。それは社会科の授業の中で感じたことにあった。まず日本では過密になっている地域と過疎化が進んでいる地域が増えていき、もしこのまま進んでいけば人口が少ない都道府県は人が減り続ける一方で、都会でも人口が更に増えていくと思う。僕の住んでいる山口県でも高齢者の割合が多く近所でも昔ほど同世代の人は多くいるようには思えない。また外国で考えてみると世界の工場と呼ばれている中華人民共和国では沿岸部と内陸部での経済格差が広がっている。過疎化が進んでいる日本の地域や内陸部に住んでいる中国の人々は都会に移住したいと考えるだろう。

そこでこのような地域に住んでいる人々が移住したいと思うことがなく不便さを解消しまた都会からも人が来てもらえるような街づくりをすればいいと考える。それに加えて誰もが安全に毎日を暮らしていくにはどうすればいいだろうか。

目標を達成するための具体的な取り組みとして、自分たちにできることと企業や国連にできることがあると思う。

まず自分たちにできることとは、今住んでいるところや海などの場所を綺麗にしていくことだと思う。例えば道路にごみが落ちていたりすれば拾ったり、海では打ち上げられた流木やごみを拾ったりしているボランティア活動に積極的に参加することなどがある。もちろんごみを捨てたりする人がいなくなれば良いけれどそうゆう人がいてもきれいな街であればとても住みやすいと思うし持続可能な街づくりには必要不可欠であると考える。

次に企業ができることとはそのSDGsに含まれている目標をその会社の技術やサービスを用いて新規事業を興していくのが良いと思った。そうすることでSDGsへの取り

組みが評価されると支援が得られやすくなると思った。この会社で働きたいと思う人も出てくると考える。だから街にとってはその会社に勤めるために移住してきて若者が増えるというメリットがあるし、企業にも先進的な思考を持ち意欲的で優秀な人材が集まるなど、win-winな関係を築くことができると思った。

そして国際連合にできることとは、内戦や自然災害などによって家を失った人たちに向けての支援を増やすことだと思います。世界では約8000万人が故郷を追われているということをニュースで聞いたことがあった。アフリカで故郷を追われている人がたくさんいて、ただお金を寄付するだけではなく、内戦などの対立を解決してそういった人に向けた家を作ったりしていくことで多くの人々が住み続けられる街づくりに繋げられることが出来ると思った。

このようにして、僕達や企業、国連などがどれかに偏らず自分たちにできることをしていけば一つ一つの目標を達成していけると思う。

第 29 回

高校生によるＳＤＧｓに関する感想文コンテスト

優　秀
作品集

特　賞（山口県知事賞）

SDGs⑭：海の豊かさを守ろう　～ 半径5メートル ～

山口県立下関中等教育学校　2年　竹島（たけしま）　藍子（あいこ）

私は、中学３年生から「Future Innovation」に所属している。この団体はSDGsに関わり自分たちの半径５メートル以内のことについて考え行動を起こすというものだ。今回は私が高校１年生で取り組んだ「海の豊かさを守ろう」について紹介する。

私の住む山口県下関市は周りが海に囲まれている場所で、海は観光資源になっている。だが、観光地以外に目を向けると漂着したゴミが多く、特に海洋プラスチックに汚染され続けている。

この現状を変えるために私たちに何ができるのか。そんな思いで私を含めた４人で学校近くのビーチに行き、ゴミを拾い、調査することにした。調査方法としては波打ち際と砂浜側にそれぞれ５メートル四方の砂浜で20分間ゴミ拾いをし、ゴミの種類や量、見た目にどのような違いがあるかを観察した。これを週に１回、２か月続けたところゴミの量はしだいに減っていった。この調査は10月から12月に行ったので、ポイ捨てをする人が海に来なくなったのではないかと私たちは考えた。ゴミの内訳として、砂浜側は炭、釣具が多かった。炭は徐々に減っていったので、これも海に人が来ないと考えられる要因である。波打ち際は、原型を留めない発泡スチロールやプラスチックゴミが多かった。近海以外の状況を調べるため市内４か所の海を調査したところ、管理下の海と管理外の海があり、前者の海の方が綺麗だということが分かった。しかし、夏季だけ管理下の海は汚れていた。

今までのことから、海でのポイ捨てをやめ、正規の場所に正しくゴミを捨てたらよいと考え、結果三つの解決策が提案された。

一つ目は「ドイツで行われているデポジット制度を山口県でも行う」というものだ。デポジット制度ではペットボトルや缶を購入する際に代金だけでなく容器代も支払う。そして飲み終わった容器を専用の機械へ投入すると容器代が返金されるというものだ。これを導入することでペットボトルのポイ捨ては大幅に減少できると考えた。

二つ目は、「捨て方が分からないものを回収するボックスを設置する」というものだ。例えば、子供が昔使った玩具などを回収する。これにより、再利用可能な資源の廃棄の減少になる。また、不法投棄も減るに違いない。

三つ目は「人の存在を意識させる」というものだ。今回の調査で原型を留めているゴミが多数あったのは全て、管理外の海であった。つまり、管理者の存在を意識させ

ることができればよいのだ。そこで私たちは、日めくりカレンダーのような毎日変わるものを置くことで効果を発揮できるのではというアイデアを考えた。

最終的に私たちは、海の豊かさを守るために、意識改革、特に街中でのポイ捨ての減少が必要だと結論づけた。

ここまでは高校１年生の時の話だ。あれから１年たった。今の私の考えについて述べる。

ごみの調査後、拾ったゴミは分別して廃棄したが、それをさらに活用できたら良かった。具体的には色や形が綺麗なものはアクセサリーやオブジェにしたら良いと思う。また、原型を留めないプラスチックゴミは、一度溶かし別の製品に加工する方法もあるだろう。

海の豊かさを守るために我々にできることは、「製品の過剰包装を止める」ことである。そう考えるきっかけは、伊右衛門のＣＭでラベルを無くすと聞いたときだ。このとき私はラベルの必要性について改めて熟考した。ラベルは商品名や成分などが記入される役割がある。しかし、これらは直接ペットボトルに記入しても良いはずだ。そうなると、不要な包装がいくつもあると思えてきた。

では、何故ここまで日本は過剰包装されているものが多いのだろうか。日本は相手を思いやって行動する場合が多い国である。少しでも消費者に分かりやすく、衛生的な商品を作りたいと願う企業は多いはずだ。しかしそれが行き過ぎ、過剰包装になってしまったのではないだろうか。

日本は国民一人あたり年間32キログラムもプラスチックを廃棄する世界でも有数の国である。また、プラスチック包装廃棄量は米国に次ぐ第２位だ。もし現在のペースでゴミを排出し続けた場合、地球に住むことが不可能になる可能性がある。これは私たち学生だけで解決できる問題ではない。どの世代も本気で考え、行動し、実現していくことで私たちが本当に輝ける、希望が持てる社会になると私は確信している。

これから私は、上記のことと、別の目標を組み合わせた新しい取り組みを行いたいと考えている。「自分たちの半径５メートル以内のことを」自分の身近なところから少しずつでも変えていけば、いずれ大きな影響を及ぼすことになる。私はそう信じ、これからも様々な取り組みを続けていきたい。

特　賞（日本国際連合協会山口県本部長賞）

SDGs⑰：パートナーシップで目標を達成しよう

～ 課題解決のために私たちができること ～

山口県立下関中等教育学校　2年　三喜田（みきた） 果音（かのん）

近年、テレビや学校、スマホの中でも「エスディージーズ」という言葉をよく耳にする。地球は今、人口が増え続け、二酸化炭素の排出量も世界で増加傾向にある。また、経済格差や資源問題、難民・貧困など様々な課題を抱えている。それらに目を向け、持続可能な世界を作るために国連が掲げたものこそがSDGsである。だが私は、SDGsの表面的な必要性だけを理解し、本当の必要性は理解していないのではないかと思う。そこで私は少し先の2045年を見ることにした。

そこには2045年問題と言われている「シンギュラリティ」があった。それが意味するのは人工知能が人間を越える転換点、つまり技術的特異点に到達することである。今の人間の社会的立ち位置がロボットやAIなどに変わる世界が私には容易に想像できた。そんな世界に変化したとき、私たちは何をするべきかを考えた。私が望む2045年の日本や世界の在り方は、人間としての責任と誇りを持ち、お互いを思いあう心を欠かさないことである。情報技術の指数的な成長によりシンギュラリティ、つまり技術的特異点を通過してしまえば、人間の臓器なども生産可能になり、不老不死も夢ではなくなる。

私は昔、「コンピューターは一度情報を入力すると忘れることがなくていいよね。羨ましい。」と祖母に話したことがある。すると祖母は、「人間の良いところは嫌なこともいいことも忘れてしまうことだよ。」と言った。その言葉が強く印象に残っていた。だが、科学の技術で脳まで人工化され人間の命に限りがなくなってしまえば、命のはかなさを忘れ、祖母が言っていたように嫌なことは忘れることができなくなり、心身の機械化が進んでいってしまうと考えた。そんな未来になってほしいと私は思わない。なぜなら人間には、異なった環境や立場の人と互いに助け合い、同じ目標に向かって課題を解決する「協力性」があるからだ。初めに書いたように、今の地球は沢山の問題・課題を抱えている。その問題に対して協力性を活かしながら解決していくことが私たちの使命であり、責任であると思う。

そして、人間として人生を一生懸命に全うすることこそが誇りとなる。私たちが人生を全うしていくにはSDGsという明確な目標に向かって、解決策を地球に住む全員で

考えるべきだと思う。SDGsに続くように2045年問題も待っており、私たちがそこで本当にするべきことはSDGsの課題解決を通して世界規模で協力性を育むことだと考えた。国境を越えた課題解決への取り組みで、国内外での協力性が高まることは間違いない。SDGsの目標の一つである17「パートナーシップで目標を達成しよう」この実現こそが今ある問題を解決していく一つのカギとなるのではないかと思った。

また、お互いを思いあう心を育む点においても、SDGsを参考にする。例えば、4「質の高い教育をみんなに」では教材や施設、先生など、他の国が援助できる点は沢山考えられる。例えば、必要なくなった文房具やランドセル、服や絵本を寄付として送るだけでも、施設創設や学校に通うことのできない子供たちの手助けができる。顔も名前も知らない子供達でも、自分たちの手で自ら行った寄付で笑顔にすることができるならば、それほど素敵なことはないだろう。私の学校では、「トリ箱」という使わなくなった検定の本や参考書、本などを回収する取り組みを行っている。少し外を見てみれば、ユニクロでは「RE.UNIQLO」という取り組みで難民や環境問題に目を向けた取り組みをしていたり、マクドナルドでは「ドナルド・マクドナルド・ハウス」という病気と闘う子供とその家族のための取り組みが行われたりしている。さらに、2「飢餓をゼロに」でもフードロスやテーブルフォーツーの「おにぎりアクション」という「日本の食で世界を変える」というコンセプトのキャンペーンがある。これは日本の代表的な食べ物「おにぎり」を通じて、アフリカおよびアジアの子供たちに温かい給食を届けるというものである。こうした取り組みで困っている人を助ける心が築かれる。

SDGsという17の目標を今よりもっと身近に感じ、SDGsについて思考することが、私たちがアクションを起こすための第一歩になると考える。私は、SDGsの目標の１、３、16と関係のある「難民」を卒業研究のテーマに選んだ。そして私の住む下関市で難民を受け入れる「農産業プロジェクト」を考えた。

このように、私たちの身近なところに世界問題を考えるきっかけはたくさん転がっている。持続可能な社会を自分たちの手で作るために、まずはお互いを思いやり、世界の現状について考えることから始めようと思った。

優秀賞（公益財団法人山口県国際交流協会理事長賞）

SDGs⑬：気候変動に具体的な対策を　～ 私達が創るこれからの未来 ～

サビエル高等学校　3年　岡本（おかもと）　萌（もえ）

地球温暖化により、私達が生活するにあたって今様々な大きな問題が発生している。気温上昇、水不足による食料不足、災害などだ。具体的にこれらはどのような問題をおこしているのだろうか。

世界の気温は工業化前と比べて、2011年～2020年の間で約１℃上昇している。たったの１℃って思う人も多いと思うが、１℃上昇すると国内の猛暑日発生回数は1.8倍に増えるということである。日本はまさに今、最高気温が35℃以上を上回る猛暑日が続いている。今年の熱中症による救急搬送された人数は８月９日の時点で、５万2000人を超えている。地球温暖化がこれから進むにつれてもっと熱中症になる確率は高くなっていくだろう。

また、日本の全国各地で育てられている農作物は天候に大きく影響を受ける。地球温暖化の影響で雨が降らなくなれば農作物が育たなくなり、生産量に大きなダメージを受ける。そうなれば私達の食べるものが少なくなってしまう。

そして日本で今多いのが災害だ。近年、地球温暖化が原因で発生した自然災害は、洪水、豪雨、高潮などである。これらの自然災害は、日本に大きな被害を与えてきた。九州でおきた豪雨災害や、広島でおきた豪雨による大規模な土砂崩れ、ついこの夏も、記録的大雨により、北日本は浸水や土砂崩れなど甚大な被害を受けた。

これらの大きな問題を少しでも良くするために、私達にできることは何があるだろうか。私は三つのことを大事にしようと思う。

一つ目は、買い物に行くときはマイバッグを持っていくことだ。スーパーなどで買えるプラスチックのバッグは大量のごみとなってしまい、そのごみは大量の温室効果ガスが排出される。温室効果ガスは地球温暖化の大きな原因の一つだ。私自身、友達と遊びに行く時小さいかばんしか持っていないため、店に入って何か物を買った時ついつい袋を買ってしまう。親と買い物に行く時はマイバッグを持っているのだが、親がいない時はマイバッグを忘れてしまう。だから、今後は一人で買い特に行く機会が増えるのでマイバッグを忘れずに持っていきたい。そして袋をやむを得ず買った時は、捨てずに家に取っておくことがとても大事だ。

二つ目は、節水だ。私はお風呂に長くいることが好きなので、その分シャワーを多く使いすぎている。これからはシャワーを出しっぱにせず、使いすぎないように気を

つけようと思う。そして、他にもトイレや洗い物、洗濯など水を使う場面はたくさんあるので、水を使う時は必要最低限で使うように気をつけたい。

三つ目は、緑の植物を植えることだ。人間や動物は、呼吸で酸素を吸って二酸化炭素を出して生活している。しかし、植物はその逆で二酸化炭素を取り込んで光合成を行い、酸素を作り出す。緑を増やして行くと生物が住む場所が増えたり、暑い時は緑のカーテンを植物で作って暑さをしのいだりと良いことばっかりである。

私は学校である活動を約半年前に始めた。それは、「使い捨てコンタクトの空ケースを集める」という活動だ。少しでも地球温暖化という大きな問題を解決するために、学校でもできることがあればいいなと考えて、この活動を始めた。この活動はアイシティという業界が2010年４月から始めた活動で、2021年３月までに389.96トンのコンタクトレンズケースを回収し、合計で1,080.19トンの二酸化炭素の削減に貢献している。回収後のコンタクトレンズケースは、リサイクル工場で粉々に粉砕された後加工されポリプロピレン再生素材になった後、ワイシャツやカラーペンなど様々な商品に生まれ変わる。普段捨ててしまいがちなコンタクトレンズケースが、商品に生まれ変わるなんてゴミの削減、資源の再利用という点で一石二鳥だ。また、ごみとなるコンタクトレンズケースを100個集めると１kgの二酸化炭素が削減することにもなる。

この活動をする前は、本当にコンタクトレンズケースが集まるか少し不安だった。だが、たくさんの生徒が協力してくれたお陰で今年の３月の時点でコンタクトレンズケースが1,700個以上集まった。これは17kgの二酸化炭素を削減できたことになる。今も活動を続けており、この先どのくらい二酸化炭素を削減できているのかとても楽しみだ。

地球温暖化という大きな問題が今以上に深刻にならないために、出来る事から始めていくことが大切だ。私達人間のせいで他の生き物にも悪い影響を与えてしまっている。一人一人どんなに小さな事でも積極的に取り組み、それを続けていくことが大切だ。そうすれば今の日本よりもっと住みやすい、そして明るく輝かしい未来が待っているに違いない。

優秀賞（山口県ユネスコ連絡協議会長賞）

SDGs②：飢餓をゼロに　～私たちにできること ～

サビエル高等学校　3年　新川（しんかわ） 七海（ななみ）

私が今回選んだテーマは「飢餓をゼロに」です。このテーマを選んだ理由は、世界で飢餓は深刻な問題となっており、さらにこのコロナ禍でさらに状況が悪化しているため、私たち一人ひとりに何かできることがあるのではないかと思ったからです。

現状、約６億9000万人の人が飢餓状態にあり、５年で約6000万人も増加しています。このままこの状況が続けば、目標である2030年までにゼロになるどころか８億4000万人を超えるとも言われています。またコロナのパンデミックにより、飢餓や栄養状態が悪化しています。

そこで私ができることを自分なりに考え実行しました。一つ目は募金です。ネットで調べるとShare The Mealというサイトが見つかり、支援が必要な所に何食分という風なかたちで寄付することができると知りました。そこで私はその中でもスリランカへの食料支援として、少ないですが６食分を寄付しました。スリランカは現在、過去70年間で最悪の経済危機に陥っており、86パーセントの家庭で十分な食事ができていません。他にもアフガニスタンやエジプトなどに色々支援できるようなので、これからも少しずつではありますが、寄付していきたいなと思いました。

二つ目は、日常生活をしていく上でフードロスを減らすことです。フードロスとは、本来食べられるにもかかわらず捨てられている食品です。令和２年度のフードロス量推計値は522万トンとなり、前年度より48万トン減少しました。これは推計以来最小値だそうです。しかし、国連世界食糧計画が世界各国で援助する量よりも、日本の廃棄量は約100万トンも多いです。買い物に行く際に、事前に買う物を確認して余分なものを買わないようにする、作りすぎない、残さない、これを一人ひとりが意識するだけで、廃棄される量は大分変わって来るのではないかと思います。最近では、スーパーマーケットでも、棚のところにフードロス削減のために手前から取るようにと書かれたものが貼られているのを見かけます。つい賞味期限や消費期限が長いものを手に取りがちですが、母と一緒に買い物に行ったりする際は、陳列棚の手前から取るように心がけています。

三つ目は、この現状を色んな人に知ってもらうことです。どのような国が飢餓で苦

しんでいて、どれだけの人が十分な食事をとれていないのか、フードロスの影響など、詳しく知らない人がほとんどだと思います。以前、家庭科の授業でプレゼンでフードロスのことについて少しですが発表したことがあります。そんなふうに誰かに向けて、情報を発信するということは大事だなと思いました。そこで私たち若者がよく利用しているインスタグラムやツイッターなどのSNSを上手く活用できないか考え、以前SNSに、世界の飢餓の状況や、日本のフードロス問題について投稿してみました。するとそこまで多くは無いですが、色んな人に見てもらうことができ、少しでも状況を知って貰えたと思うと、とても嬉しかったです。

このように、一見私たちに何ができるんだと思っている課題でも、視野を広げてみれば、案外出来ることがあるんだなと改めて考えさせられました。この三つの活動はこれからも地道に続けて行きたいと思ったし、少しでも世界中で飢餓で苦しんでいる人を助け、SDGsの目標「飢餓をゼロに」が少しでも早く達成できればいいなと思いました。

特別賞（国際ソロプチミスト山口賞）

SDGs④：質の高い教育をみんなに　～ 質の高いって何だろう ～

山口県立下関中等教育学校　2年　川﨑（かわさき）　光稀（みづき）

「教育格差」と聞いてどんなところを思い浮かべるだろうか。アフリカ、東南アジア、貧困な国々を思い浮かべる人が多いだろう。しかし、日本も例外ではなかった。

最近、ウクライナ情勢のニュースをよく見かける。ロシアのウクライナ侵攻による軍事衝突が起きたからだろう。そのニュースの中で、死者や負傷者だけでなく学校が激しい砲撃を受け、子どもたちが「早く学校に行きたい、勉強したい」と言っている姿を目にする。私は正直、学校に行きたい？勉強ってそんなに大事？と思っていた。私にとって、学校は授業を受けに行くだけのところではなく、友達とコミュニケーションをとりに行くものだとも思っていたからだ。そんな時、英語の授業である女性と出会った。史上最年少でノーベル平和賞を受賞した、マララ・ユスフザイさんだ。教科書には彼女のスピーチが載っていた。そのスピーチを見て、勉強は知識を増やすだけのものではなく、今まで知らなかったことに触れ世界を広げる、将来の選択肢を増やすなどたくさんの意味があることに気づいた。確かに、以前見たドラマの中で、学校に通えないフィリピンの子供が「日本とフィリピンはこんなに近いのにどうしてこんなに違うの？勉強ができたらもっと世界のことを知れるのに」と言っていたのを思い出した。

彼女との出会いをきっかけに私は、教育について調べてみることにした。すると、日本ではSDGsの目標にもある「質の高い教育をみんなに」が達成されていること、アフリカなどの貧困の国では、教育が受けられない子が多いことが分かってきた。その事実を知って、貧困の地域で勉強できる機会を増やすためには、何が必要かなと考えるようになった。鉛筆を送る、本を送る、現地に行く。そういった支援をする優しさを持つことで困った人を助けられると思っていた。でも、そういったことは一方的で、相手からすると迷惑なのではないか。もっと必要としているものがあるのではないか。そう考えるとまずはもっと勉強しようと思った。しかし、本やインターネットで詳しく調べていくにつれて、日本でも十分な教育が受けられていない子どもたちがいるという事実が見えてきた。

海外の「教育格差」の原因は貧困。では、日本では何が原因だろうか。実は、「学校間格差」「家庭環境による格差」「学歴格差」「地域間格差」など原因は様々だ。その中でも一番大きいのは「地域間格差」だと私は思う。日本でも、都市部と地方の格差は大きい。一つは情報の格差だ。都市部では多くの企業があるためさまざまな職業の人が集まり、多くの学校もあるため、自分の進路や将来のキャリアを考えるためのロールモデルと選択肢が多くある。一方、地方では都市部に比べると、人口が少なくそのような機会に乏しい。そのため、今年は哲学カフェという名で、進路や学習に悩む学生に相談できる場所を作る予定だ。また、学校では学べない暮らしの知恵や技術を学べる場を提供しようと思っている。学校の授業だけだと、体験や、課題発見力、実行力が足りないと思うからだ。一つでも多くの経験や技術的・職業的スキルを持つことによって職業の選択肢が増えるのではないかと考える。また、近年いじめなどによる不登校の増加が問題になっている。そこで私は、学校みたいな堅苦しい場所ではなく、フリースクールを増やしていくべきだと思う。文部科学省では「不登校はどの生徒にも起こりうること」として、不登校の子への支援の基本的な指針として「学校に復帰すること」を目指すのではなく、「社会的な自立を目指すこと」に変化している。現代では、動画で有名な先生の授業を見ることもできる時代だ。好きな場所で好きな人と楽しく学ぶのも一つの選択肢だと思う。そのため、地域の行事に参加した際によく聞く、学校に行くことのできないと言っている子に、「無理に学校に行かなくていい、安心して通える場所があるよ」と教えてあげたい。

日本では、義務教育が整備されている。そのため、みんな基本的な教育を受けることができていると思っている人が多い。今日の日本では、なに不自由なく楽しく毎日学校に行ける人がいる。その一方、ヤングケアラーと呼ばれる親の介護などで学校に行けない人もいる。私には、マララ・ユスフザイさんみたいにかっこよく主張することができないし、高校生の今できることは少ない。だからこそ、本やインターネット、ニュースなどで現状を知っていくことを優先的にしていこうと思う。「質の高い教育をみんなに」というSDGsの目標を達成することはみんなを笑顔にすることにつながる。教育によって職業選択の幅が広がり、貧困を削減することができるのだから。世界のことに目を向ける前にまずは目の前のことに目を向ける。身近なところにはまだ気づいていない現実が隠れているのではないだろうか。

特別賞（山口ロータリークラブ会長賞）

SDGs⑪：住み続けられるまちづくりを　～高校生によるSDGsに関する感想文～

柳井学園高等学校　1年　泉（いずみ） 穂乃香（ほのか）

私は、開発目標の11番「住み続けられるまちづくりを」について考えていきたいと思います。

私が初めてSDGsを知ったのは、中学１年生のときでした。総合的な学習の時間に、「SDGsとは何か」ということを学び、自分たちで17の目標のうち一つを選んで、班になって調べ、調べたことを地域の方に紹介したり、学年内や文化祭で全体発表をしたりしました。

私の中学校は、SDGsの取組を行った先進校として、実際にテレビの全国放送でmp紹介されたほどです。

このようにして、中学校のときからSDGsを学んできた私は、高校生になった今でも心がけていることがあります。それがSDGs11番です。この「住み続けられるまちづくりを」について学習してから、私は皆が快適に暮らせるように、積極的にゴミ拾いなどを実践してきました。また、地域の伝統文化活動にも参加してきました。それは、地域の夏祭りにボランティアとして参加し、おみこしを造って、皆に披露したことです。

このような取組を通して、住み続けられるまちづくりを進めるためには、まちの美化を保ったり、地域の伝統文化を広めたりして、住んでいる人にまちに誇りをもってもらうことが大切だと考えるようになりました。私自身もSDGsを学んだことによって、まちの活性化に対しての意識が向上し、何より自分自身が楽しく生活できるようになりました。テレビでも、最近になって、SDGsの特集を組んだり、SDGsをテーマにした歌が流れたり、啓発が進んできていると感じます。SDGsは、2030年までに達成すべき目標です。達成できるかどうかは、私たち一人ひとりにかかっていると思うので、私は今後も取り組んできたことを継続したいです。

現在、高校地理の授業でもSDGsについて学習するようになりました。そこで、改めてSDGsの大切さや、これから生活していく上で自分たちが作り上げていく未来の在り方について、しっかり考えていきたいです。

私は、今でも「SDGsスタートブック」と中学校のSDGs宣言のファイルを大切に持っています。SDGs宣言とは、

「Sumiyoshi Defend Generation School」～住吉中学校は次の世代を守っていく学校である～というものです。

中学校でSDGsについてしっかり学んだからこそ、私はその必要性を理解できているし、自分の住む地域をスタートラインにして、すべての国の人々が平和に幸せに生きて暮らしてほしいと願っています。

わたしたちがつくる『未来』は、簡単なものではありません。だからこそ一人一人の地道な努力が必要だということを知っておきたいと思っています。SDGsを知らない人は、これから少しずつ知り、自分が達成したい目標を一つ選び、取り組んでいくのも良いかもしれません。一人一人の努力が世界を変える第一歩となります。私もまだまだ国のため、世界のために少しずつ達成に近い行動をしなければならないと思っています。一人ひとりがSDGsの主役です。みんなで取り組めば、世界の中で苦しんでいる人を一人でも救うことが出来るかもしれません。

私は、これからもSDGsを意識して続けていきます。2030年まであと８年、出来る限りのことをして、皆が幸せに住み続けられるまちを作っていけるように、努力したいです。

SDGsのゴールを目指し、みんなで取り組むことが大事だと思っています。SDGsを知り、みんなで未来を変えましょう。

2022 年度募集要項

第 62 回「国際理解・国際協力のための中学生作文コンテスト」山口県大会

◈ **テーマ**　作文の題目は、「①持続可能な開発目標（SDGs）の中で一つ目標を選ぶとしたら、どのような理由でどの目標を選ぶか。また、その目標をどのように達成するか。」、「②今の国連に何が求められているのか。」又は「③争いや差別のない世界にするために国連と私たちができること。」のうちいずれか一つとします。なお、作文の内容は、学校、家庭、社会などにおける執筆者の学習や体験あるいは実践などを通し、国際連合について述べたものとします。

◈ **応募資格**　県内在住又は在学の中学校生徒または左記に準ずる在日学校在学生

◈ **原稿制限**　400字詰め原稿用紙４枚以内

◈ **賞**　特賞:２名、優秀賞:２名、特別賞:２名（副賞:図書カード、参加賞:文房具等）

第 29 回「高校生による SDGs に関する感想文コンテスト」

◈ **テーマ**　題目は自由。作文の内容は、持続可能な開発目標（SDGs）のうち、いずかれ一つを選択し、選択した開発目標について、学校、家庭、社会などにおける執筆者の学習や体験あるいは実践などについて述べたものとします。

持続可能な開発目標（SDGs）

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標

①貧困をなくそう
②飢餓をゼロに
③すべての人に健康と福祉を
④質の高い教育をみんなに
⑤ジェンダー平等を実現しよう
⑥安全な水とトイレを世界中に
⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに
⑧働きがいも経済成長も
⑨産業と技術革新の基盤をつくろう
⑩人や国の不平等をなくそう
⑪住み続けられるまちづくりを
⑫つくる責任つかう責任
⑬気候変動に具体的な対策を
⑭海の豊かさを守ろう
⑮陸の豊かさも守ろう
⑯平和と公正をすべての人に
⑰パートナーシップで目標を達成しよう

◈ **応募資格**　県内在住又は在学の高等学校生徒（全日制、定時制、通信制）、高等専門学校生徒（ただし、３年生まで）

◈ **原稿制限**　400字詰め原稿用紙５枚以内

◈ **賞**　特賞:２名、優秀賞:２名、特別賞:２名（副賞:図書カード、参加賞:文房具等）

共　通　事　項

◈ **締切及び審査と発表**

令和４年９月６日(火)必着。主催団体において審査し、10月下旬に入選者に連絡します。

◈ **応募作品の取り扱い**

①応募作品は返却しません。②入賞作品の版権は、主催団体に帰属します。③作品は自作･未発表のものに限ります。④中学生による作文の上位入賞作品については、全国コンクールへ出品します。

◈ **個人情報について**

応募者の個人情報については、応募者の選考、連絡のために利用します。これらの目的の他に応募者の個人情報を利用することはありません。

◈ **応募先・お問い合わせ先**

〒753－8501　山口市滝町１－１　山口県観光スポーツ文化部国際課内
日本国際連合協会山口県本部　TEL 083-933-2340 https://unaj-yamaguchi.sakura.ne.jp/

令和５年１月発行

発行元
日本国際連合協会山口県本部
〒753－8501 山口市滝町 1－1
山口県観光スポーツ文化部国際課内
TEL（083）933－2340

日本国際連合協会山口県本部